

令和4年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号: 27-3

担当部局・担当課名: 生活環境文化部 国際課

事業名	海外技術研修員受入事業	評価結果	抜本的改善
-----	-------------	------	-------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

【委員の意見】

- ・技術協力事業としては役割は終えてしまっている。
- ・国際交流や富山のPRなどにシフトしていくべき。
- ・これまで培ってきたものを切るのはもったいないので、違うやり方でやるのが良い。

【県民評価者の意見】

- ・フォローアップが足りない。
- ・せっかく今まで続けたこの事業を、ちょっと形を変えて継続したら良いと思う。

県民評価者の評価シートによる評価

県民評価者総数

17

評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (役割は終わっている)	役割分担 見直し (国や市町村でやった ほうが良い)	抜本的改善 (事業の枠組みを変え る)	一部改善 (基本的には今のやり 方で良いが、フォロー アップや受入人数の見 直しが必要)	現行どおり ・拡充 (今までどおり進めたほう が良い)
	4	1	7	4	1
県民評価者の 主な評価 シート コメント	評価結果と 同じ評価	<p>【抜本的改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前の目的と現在とでは大分形が変わっているので、その辺の見方を少し変えて新しい形にしたらどうかと思う。 ・日本として国際親善の方法が変化している中、富山でする意義・目的を改めて考える必要がある。帰国してからの研修員の活動のフォローアップがもっと具体的になる必要がある。(例えばオンラインで定期的実施) ・今後の方向性として富山のPR・日本文化への理解を深める観点を重視するのであればテーマを定めた募集をすべきではないか。 			
	上記以外	<p>【行政の関与不要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は国際交流の機会が限られている中で県と友好提携先の交流の推進に一定の役割を果たしていたと思われませんが、現在は県職員の派遣や技能実習生、留学生など他の方法での交流人口が増加しており、年間2名程度を数か月受け入れる程度では成果があまり期待できないため廃止でよいと思います。 <p>【一部改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入事業の目的は昔は技術の習得とそれによる母国の発展・国際親善の増進。今は富山県のPR・応援団の育成と変わってきているように思われるが、引き続き実施してはどうか。これまでの研修先のフォローをすべき。 <p>【現行どおり・拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外にとやまファンをつくる取組みは継続して行って欲しいです。親善活動を母国に戻ってどれだけされていて成果があるのか気になります。 			

事業名	海外技術研修員受入事業	評価結果	抜本的改善
------------	-------------	-------------	-------

【参考】委員による評価				委員総数	4
評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (役割は終わっている)	役割分担 見直し (国や市町村でやった ほうが良い)	抜本的改善 (事業の枠組みを変え る)	一部改善 (基本的には今のやり 方で良いが、フォロー アップや受入人数の見 直しが必要)	現行どおり ・拡充 (今までどおり進めたほう が良い)
	0	0	4	0	0
コメント 委員の主な評価	【抜本的改善】				
	<p>・平成15年度の国庫補助事業が終了してから富山県の独自の事業としてやってきたことも20年経って目的が変容してきているのではないかと。県がお金を出してまで行う国際交流については県全体で取り組んでいる事業を棚卸し・再構築して、必要な事業に予算を振り向けるようにしたほうがよい。効果は対象者からの継続的なフィードバックでも測れるのではないかと。</p> <p>・目的は時代遅れなので根本的な改正が必要。富山のPR・応援団をつくるという視点が必要。</p>				

県の対応

対応方針	抜本的改善	事業内容見直し			
	○従来の研修内容に、富山に関する研修や文化体験、母国への情報発信に関する内容を追加することにより、富山愛好家を海外に広め、関係人口増加に繋げる				
R5当初予算での対応	R5当初予算(案)	7,600(千円)	R4当初予算	5,071(千円)	増減額 +2,529(千円)
	増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・研修員受入数の増(2人→3人) +2,184千円 ・研修内容の拡充による増 +345千円 			

事業名	海外技術研修員受入事業	評価結果	抜本的改善
------------	-------------	-------------	-------

当初予算編成プロセスの見える化

令和5年度当初予算	要求状況	要求額	7,600(千円)	前年度予算額	5,071(千円)	
		事業の目的	友好提携先等から研修員を受け入れ、技術の修得及び県民とのふれあいを通じて、母国の発展に貢献しうる人材の育成を図るとともに、母国への情報発信により富山のPRを行い、富山愛好家を海外に広め、関係人口増加に繋げる。			
		事業内容	受入人数:3名 研修期間:7月～11月(5か月) 研修内容: ①語学(日本語)研修 ②希望する企業や分野での専門研修 ③富山研修…県内市町村で研修(観光、産業、食) ④文化体験…国際交流イベントやホームステイを通じて県民と交流 ⑤母国への情報発信(zoom、SNS) ※官民協働事業レビューにおける指摘を受けて、③～⑤を追加			
		積算内訳	富山滞在費・研修先謝礼等7,272千円、事務費328千円			
	予算編成過程における議論		レビューにおける意見を踏まえ、富山に関する研修や文化体験、母国への情報発信を事業内容に加えるなど、適切に見直しが行われている。			
	最終的な予算案	予算額	7,600(千円)	/		
要求時点からの変更点		変更なし				